令和７年度　第１回　学校運営協議会　議事録

令和７年４月 23 日（水）
９時 30 分から 11 時 30 分
場所:会議室　記録:六車

１　開会

２　任命状伝達

３　校長挨拶

４　自己紹介と会長・副会長の決定
会　長：村本　幸雄　氏　　副会長：池谷　修　氏

５　校内参観　（小学部→中学部→高等部）

６　協議（司会：村本会長）
(1) 令和７年度の学校運営計画等について
ア　令和７年度学校経営計画等の説明（校長）
（校　長）　本校は沼津市、長泉町、清水町、一市二町を学区としている。令和７年度は小学部 85 人、中学部 56 人、高等部 88 人の合計 229 人でスタートしている。昨年度より合計 10 人増えている。少子化だが、特別支援学校は増加の傾向にある。伊豆の国特別支援学校が開校して全校児童生徒数は減ったが､再び微増傾向にある。本校は知的障害が前提となっており、知的障害と他の障害を併せもった児童生徒が登校する学校である。
　学校教育目標は「共に育てる　自立と輝き」である。児童生徒が持っている力を最大限に伸ばし、個々のより良いゴールを目指す。「共に」は、学校・保護者・地域・子ども同士であり、自分自身も含めている。学校以外でも、地域と共に、関係機関と共に、ということで学校運営協議会も含まれる。「自立」は、小学部、中学部、高等部のそれぞれのステージで自立がある。「輝き」は、他者からも認められたり自信をもって生きたり、生きる力を高めるということ。
　学校教育目標を達成するために、「安全」という観点では、福祉避難所の指定に向けて特に力を入れて考えている。人権教育の年間計画は今年度策定したものを着実な遂行していく。「専門」という観点では、つながりのある支援と指導を充実させたい。小中高の学びのつながりをキャリアパスポートを軸に活用し、学習の足跡を残していきながらつなげていく。「連携」という観点では、自立と輝きに向けた発信と協働を充実させたい。協働の部分で学校運営協議会の皆様の御協力いただきながら進めていく。「チー

ム」という観点では、アサーティブ（相手を尊重しながら自分の思いも伝えていく）な関わりをずっと続けてきているため、チームとしてやりがいがもてる学校をめざし、今年度は沼特マインドに「相互にありがとう」を加えている。ありがとうが満ち溢れる学校にしていく。

始業式で子どもたちに「～したい」を増やしていこうと伝えた。「～したい」が増えることが自立につながり、充実する。できるようになったことを確かにしながら成長する。そして、学んだことや気持ちは身体とつながっている。つながりを大事にしていきたい。

沼津特支の学区は沼津市と清水町と長泉町である。沼津市と駿東郡で「ぬまっすん」ということを考えている。１市２町の土地を合わせた形をモチーフにキャラクターのデザインを子どもたちに考えてもらおうと思っている。学習して、沼津市や長泉町、清水町にはこんな特産品がある、こんな名所があると勉強してきたら、学習の成果とキャラクターが繋がると学習の成果がより高められると考えている。このように始業式で、学校経営計画について子どもたちとも共有させていただいた。「愛鷹山のあちらには日本一の富士山があるが、こちらの沼特の方が日本一だよという気概を持ってやりましょう」と職員一同、子どもたちにも共有した。今年度の学校経営については以上である。

イ　質疑応答

（副会長）　令和６年７月に、児童発達支援ガイドライン、放課後等デイサービスガイドラインが出たが、今、説明を受けた中にどれだけ反映されているか、反映されていないか、影響があったかをお尋ねしたい。

（校　長）　子どもに関する条約や法律が整備されてきたことは勉強していたが、今の点に関しては、全く不勉強だった。経営計画の人権教育のあたりに反映できていればと思うが、遂行の段階で、池谷様もいろいろ教えていただきながら反映させていきたいと思う。

（副会長）　先日の研修会で「こんなに変わってしまうんだ」とカルチャーショックを受けた。支援する事業所や放デイ等の支援について示してある。沼特を卒業すると事業所等に行く人も多いので、支援の整合性等については学校も勉強していかなければいけないから大変だ。どれだけ反映されているのだろうかと思った。

（会　長）　学校経営計画書に基づいて進めてほしい。学校職員だけの目標ではなく、子どもたちや保護者とも共有して進めてほしい。

ウ　令和７年度学校経営計画の承認

(2) 地域等の参加による学習活動の実施について

ア　各学部の地域等と連携による学習活動の計画（別紙）

（副校長）　資料の中に「ぬまコミュ第３号」を入れさせていただいた。昨年度の最後の学校運営協議会をこの紙面にまとめている。様々な意見をいただくとともに、学校の取り組みにも触れている。地域とのつながり、地域にある学校ということで、様々な御意見をいただいている。インスタグラムなどを使ったら良いのではないか、団地や公民館あるいは小学校など集う場所ができると良いのではないか、また学校内でも他学部との関わりも大事ではないか、などの意見をいただいた。ぬまコミュ第３号の２ページ以降には、小学部の取り組み、中学部の取り組み、高等部の取り組みも写真で紹介している。また、お手元の資料の５ページ目には、令和７年度の地域等との連携による学習活動の計画について、各学部の計画をまとめさせていただいている。昨年度から継続したい活動や、新たに取り組んでいきたい活動もある。

この後のグループワークで、地域での学校の取り組み、地域との関わり方や可能性について、御意見をいただきたい。実現できそうなものや実現が難しいと思われるものもあるかと思うが、様々なアイディアを出していただきたい。もう一つの資料として、牧之原市立川崎小学校のコミュニティスクールの年間計画も入れさせていただいている。

（校　長）　学校協議会には地域コーディネーターを設けることになっている。山本様には地域コーディネーターの役割を打診しており、現在も充分に地域の方には様々なことをしていただいている。また今年度も、小中高の部主事から学部の活動を取りまとめたものを山本様の方にお渡しして、一括して伝わるような形を考えている。インターネットで川崎小学校のコミュニティスクールの年間計画が整理されたものを目にした。素晴らしいと思ったが、よく見ると沼特でもやっていただいている内容だということに気付いた。枠組みの中に整理してみると、沼特は様々なことを既に学校運営協議委員の皆様を中心としたバックボーンの方たちに御協力いただいている。ありがたさを感じながらも、一つの考え方として一覧にまとまっていると、これから更に何ができるか、沼特のコミュニティは素晴らしい、学校や地域にとってはどうか、など見つめ直すためのツールだと思ったので紹介させていただいた。

（副校長）　資料も参考にしながら意見をいただきたい。

＜Ａグループ（村本氏、山本氏、立川氏、教頭、小学部主事、教務課長）＞

・川崎小学校のように全体計画がまとめられるとよい。

・肩の力を抜いて、相互に無理なくつながる。

・ライオンズクラブの中でも、障害がある方と関わりをもとうとする動きは出てきてい

るが、どう関わってよいのか、関わり方が分からない等の気持ちがある。少しでも触れ合える機会を増やしていきたい。

・１つの地域に頼ると負担がかかってしまう。沼津市、長泉町、清水町とも関わりを広げていければよい。長く続くとよい。

・原コミュニティーが今年で30周年を迎えるが、沼津特支からも参加できる場があれば参加していきたい。

・令和６年度にライオンズクラブ運動会を開催した。令和７年度も開催予定である。学生主導での運営を考えている。同年代同士の関わりはとてもよい。見たことのない子どもの姿を見ることができる。

＜Ｂグループ（池谷氏、梶浦氏、芹澤氏、高等部主事、中学部主事）＞

・商工会では、企業との懇談会を設定したいと考えている。雇用する枠組みが分からない企業もある。

・学校として、情報を伝える場があるとうれしい。

・様々な分野で人手不足である。働き手として、外国人や障害者、シルバーがある。

・法人会や商工会なども、それぞれの組織がつながることができるとよい。

・学校を知ってもらうことが応援につながる。

・障害者を雇用することで会社が良くなった事例を聞く。卒業生が働く姿をフィードバックできる機会があるとよい。そういう場も大切ではないか。

・同窓会はあるが、入会者は少ない。育成会も縮小傾向にある。横のつながりが希薄になりつつある。

7　今後の学校運営協議会の予定

第２回：令和７年10月29日（水）前期の評価及び後期の取組

第３回：令和７年11月　５日（水）～12月12日（金）学校参観

第４回：令和８年　２月　４日（水）後期の評価及び次年度の取組

年度途中に参観、御意見をいただく機会を設けることがある。

8　閉会

（校　長）　最後のグループワークでは様々な御意見をいただいた。川崎小学校の資料のように、見える化してお互いの活動や学校との連携が分かると良いという声をいただいたので、表の作成やこの会に御協力いただいていることが可視化できるように取り組んでいきたい。実は学校運営協議会は、ここでやる会だけが学校運営協議会ではなく、年間通しての活動そのものが学校運営協議会というふうに考えさせていただいている。皆様に一堂に会していただくのは数回だが、途中の着想や気付いたことがあれば、随時窓口の副校長に声を掛けていただきたい。また、村本会長にも相談しながら進めさせていただきたいと考えているので、この参会する場だけでなく、年間を通して沼津特別支援学校をよろしくお願いします。